

大磯町では、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」を平成 29 年 4 月 18 日に実施しました。

本調査は、小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒を対象としたもので、大磯町は小学生 259 名（うち、後日実施 4 名）、中学生 261 名が参加しました。

平成 29 年 8 月 28 日に文部科学省からの調査結果公表を受け、平成 29 年度大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会を組織し、大磯町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまいりました。このたび、調査結果の報告がまとまりましたので、次のとおりお知らせいたします。

大磯町の【特長】と（課題）

【特長①】『大磯町では、児童・生徒に対して、必要な学力を身につけています！』

⇒教科に関する調査の結果から、大磯町は全国及び県の平均正答率と比較して、大きな差は見られませんでした。このことから、大磯町では児童・生徒に対して必要な学力を身につけていていると考えます。

【特長②】『大磯町では、授業改善の成果が着実に表れています！』

⇒大磯町では、「大磯学びづくり推進研究事業」を拡充し、大磯町全体のテーマ『日常授業の改善・充実』を受け、各校で研究テーマを設定し、授業改善に向けての研究を進めています。一方的に知識を伝達するような授業だけではなく、習得した知識をもとに、児童・生徒がそれをどのように活用するのかを考える授業、児童・生徒の発言が多い授業への転換を目指していますが、今回の質問紙調査の結果を見ても、児童・生徒が、「授業の中で発表する機会が与えられていると思う」「授業で話し合う活動をよく行っていると思う」と回答する割合が昨年度よりも増えており、着実に授業が変わってきていると言う事ができます。

（課題）『学校は、地域と連携して子ども達を育てる環境づくりを目指す必要があります』

⇒学校は保護者や地域と協力しながら子ども達を見守っておりますが、今回、児童・生徒質問紙調査の結果から、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した割合が昨年度よりも減少していることが分かりました。

新学習指導要領が目指す方向の一つである、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子ども達に育む「社会に開かれた教育課程」を実現し、地域・社会に目を向ける子ども達を育むためにも、保護者及び地域と協力しながら、子ども達を取り巻く様々な課題を解決していく必要があります。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意して、教育施策・教育活動の改善に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、大磯町の児童生徒の健やかな成長のため、今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

1 教科に関する調査の結果から

【小学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町ではA・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき学力について指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、A問題及びB問題の「読むこと」については、全国や県の平均正答率よりも上回る結果となりました。

その一方で、A問題の「話すこと・聞くこと」については、やや課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く【A問題】 ・俳句の情景を捉える【A問題】 ・自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える【B問題】	・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く「タイショウ（対象）」【A問題】 ・目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

・学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導していく。 ・話の構成や内容を工夫するために、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり結論付けを明確にしたりすることなどを指導していく。 ・声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分け等、その場に応じた最も適切な表現の仕方についての指導を行っていく。

【小学校算数】

今回出題された学習内容について、大磯町ではA・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき学力について指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、A問題の「図形」について、県の平均正答率を上回る結果となりましたが、その一方で、「数量関係」についてはA・Bやや課題が残りました。

また、B問題については、問2（2）以降で無回答率が全国や県と比較して高い結果となりました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えときの、乗法の性質を理解している【A問題】 ・二つの数の最小公倍数を求めることができる【A問題】 ・示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる【B問題】	・資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる【A問題】 ・示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・二次元表の合計欄の数値と実際に調査した人数を比較する場を設け話し合う活動を行っていく等の指導をしていく。その際、合計欄の数を倍にしてしまった事例等を取り上げ、そのように判断した理由について話し合う中で、合計欄に入る数値が調査した人数と一致することを確認する等、工夫した指導を行っていく。
- ・ある調査結果を二次元表に作り直す活動を設け、表に当てはまる数の意味について考える等の指導をしていく。

【中学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、A・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、A問題の「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全国や県の平均正答率よりも上回る結果となりました。

その一方で、B問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する【A問題】 ・文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする【A問題】 ・目的に応じて必要な情報を読み取る【B問題】	・文脈に即して漢字を正しく書く「エンキ（延期）」【A問題】 ・表現の仕方について捉え、自分の考えを書く【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように注意しながら学習させていく。また、「話すこと・聞くこと」の学習や、他教科等の学習の中でも同音の漢字や形が似ている漢字などの間違いやすい漢字について意識させるように指導していく。
- ・本を読んで印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動を行っていく。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にしたり、感じたことや考えたことを具体的に説明したりすることができるように指導していく。

【中学校数学】

今回出題された学習内容について、大磯町では、A・B問題ともに、全国及び県の平均正答率を上回る結果となりました。大磯町の学校は、全国や県と比較して、児童・生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

しかし、学習指導要領の領域等でみると、A問題の「資料の活用」について課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・等式を目的に応じて変形することができる【A問題】 ・錯角の意味を理解している【A問題】 ・与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる【B問題】	・与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる【A問題】 ・2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・相対度数の必要性和意味を理解できるようにするために、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導していく。
- ・事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明できるようにするために、日常的な事象において、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定し、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるように指導していく。

2 児童生徒質問紙調査の結果から

【小学校】

「学校に行くのは楽しい」「学校で、好きな授業がある」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。また、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した割合も高くなっています。

児童が安心して通える学校づくりと、道徳教育を中心として児童が自己肯定感をもち、他人に親切にできるように指導の充実を図っていきたいと思います。

【中学校】

昨年度の調査と比較して、「自分には、よいところがある」と回答した生徒の割合が増えましたが、「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒の割合が低くなっています。生徒が自己肯定感を高め、将来の自分の姿を考えられるように指導の充実を図っていく必要があると考えます。

一方、「読書は好き」「数学の授業は好き」と回答した割合が昨年度よりも高くなっています。学校における読書活動の充実と共に、生徒達の学習意欲が高まるような指導方法の改善・充実を図っていきたいと思います。

3 家庭や地域の皆様にお知らせしたいこと

- ・児童生徒質問紙の質問への回答状況と各教科の調査結果を比較すると、次のような児童生徒に、平均正答率が高い傾向がみられます。（必ずしも因果関係を示したものではありません。）

【小学校】

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。
- テレビやビデオ・DVDの視聴が1日当たり1～2時間以内である。
- 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの利用は1日あたり30分以内である。
- 授業時間以外に、1日当たり2時間以上読書をしている。

- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思っている。
- 読書は好き。

【中学校】

- 朝食を毎日食べている。
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- テレビやビデオ・DVDの視聴が1日当たり1時間より少ない。
- 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの利用は1日あたり1時間以上、2時間より少ない。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と将来のことについて話すことがときどきある。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 読書は好き。

- ・児童質問紙において、「1日当たり3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。学校でも引き続き話題にしていきますが、ご家庭においても携帯電話やスマートフォン利用の決まり等についてお子様と話し合っていただくようお願いいたします。
- ・生徒質問紙において、「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、「（携帯電話やスマートフォンを持てはいるが）約束はない」と回答した割合が、県や全国と比較して高くなっています。学校でも携帯電話やスマートフォンの適切な利用について指導を行っていきますが、ご家庭においても利用の決まり等について、お子様と話し合っていただくようお願いいたします。

4 大磯町教育委員会から

町教育委員会では、本調査の分析結果を各学校に提供しました。学校では、町全体の分析結果をもとに、各校の詳細な結果の分析と考察を進め、成果と課題を明確にしました。今後の教育活動において、成果についてはさらなる充実と、課題については全校挙げての解決に取り組んでまいります。

今回の調査結果から、町は全国・県と同程度の学力を児童・生徒へ概ね指導できていることが明らかとなりました。その一方で、教科の領域によっては、明確に課題であると判断できる内容もありました。これについては、全ての教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでまいりたいと思います。

町教育委員会では、平成25年度から昨年度まで神奈川県から「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し、様々な研究・研修会を企画及び実施することを通じて、教員の資質向上と共に、「日常の授業の改善・充実」に努めてまいりました。

今年度は上記事業の成果を土台として、「大磯学びづくり推進研究事業」を拡充し、町として

全校・全教員に対して授業改善の取組を指導すると共に、学校・教員の主体的な取組に対する支援も行っております。

具体的には、昨年度中に取りまとめた『大磯町授業スタンダード』の共有を図り、全ての教員が授業改善を日々行っております。また、新学習指導要領の全面実施に向けて、各校では外部から講師の方を招く等して、最新の教育動向についても学ぶ機会を設定しております。さらには、大磯町教育研究所の研究及び研修交付金事業も活用し、教員が主体的に教師としての資質・能力を高められるような支援の手立てもとっております。（研究及び研修の成果は、日々の指導等を通して、大磯町の子ども達に還元されることになります。）

そして、校区の小・中学校で一緒に授業研究を実施する等の連携を図り、児童・生徒を義務教育の9年間で育てていくという視点で、教育課程の共有についてもさらに進めていきたいと考えております。

最後になりますが、町は平成27年に大磯町教育大綱を策定いたしました。その基本理念である、「いのち」「こころ」（～自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり～）を輝かせる三つの力（「知力」「体力」「共感力」）の育成を目指していくために、教育委員会と学校は、家庭や地域との連携を図り、協力をいただきながら、未来を生きる大磯町の子どもたちのために必要な力を育成していきたいと思っております。今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。